

# 臨床研究に関するお知らせ

## がん化学療法を受けられる方へ

### 課題名 「がん化学療法に伴う眼障害の発現状況に関する調査」

この説明文書は、私たちの研究に対する理解を深めるためのものですのでよくお読みになり、研究に参加いただけるかどうかご検討ください。

この研究に参加されるかどうかを決めていただくためには、研究の内容についてできるだけ多く知っていただくことが必要です。説明の中でわかりにくい言葉や疑問、質問がありましたらどんなことでも遠慮なくお尋ねください。

#### 1. 研究内容

近年、たくさんの種類の抗がん薬が開発され、がん患者さんの治療が大いに進歩してきています。しかし、これらのお薬の使用に伴って眼に対する副作用(涙が止まらない、物が見えにくいなど)をはじめ、これまでにあまり知られていなかった副作用が報告されてきています。お薬による副作用は患者さんの生活の質を著しく低下させる可能性があり、我々医療者にとっても注意すべき課題です。

そこで、過去のカルテ情報を元にして当院にて経口抗がん薬を処方された患者さんにおいて眼に対する副作用が出ていなかったかについて調査研究を行うこととしました。

#### 2. 対象

2012年7月から2013年6月までの期間中に、当院で経口抗がん薬（ティーエスワン配合カプセル、ユーエフティ配合カプセル、イレッサ錠、タルセバ錠、スーテント錠、ネクサバル錠）を処方された患者さんが対象となります。

#### 3. 研究の方法について

カルテ情報の調査を行い、経口抗がん薬（ティーエスワン配合カプセル、ユーエフティ配合カプセル、イレッサ錠、タルセバ錠、スーテント錠、ネクサバル錠）内服時に眼の副作用が出現していないかを調べます。その際に、年齢、性別、身長・体重および投与量や眼科受診状況を調べます。ただし、診療番号、氏名や住所のような個人が特定できる情報は収集しません。

#### 4. 最後に

この研究では対象となる方に直接治療などを行うことはありません。カルテ上の過去の経過記録を用いた研究であり、本研究に参加することによる患者さんの利益・不利益はともにありません。この研究を行うに当たり、対象となる方が費用を負担することはありません。また謝礼もありません。この研究で得られた結果は、学会や医学雑誌等に発表されることがあります。このような場合、対象となる方が特定できないようにし、個人情報などプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。研究にご協力いただけるかどうかは自由意思です。もし、お断りになられたとしても、治療などの点においてあなたの不利益になるようなことはありません。

参加拒否の申出がなければ、本研究にご賛同いただいたものとしますので、あらかじめご承知おきください。

参加を希望されない場合には、2013年11月30日までに金沢大学附属病院薬剤部 崔 までお知らせください。

2013年10月

金沢大学附属病院薬剤部（電話 076-265-2046）

研究実施責任者 崔 吉道

研究実施分担者 中出 順也